

令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添	あり
----	----

応募概要	分野	伝統芸能	種目	邦楽
	応募区分	特別エリア区分		
	複数応募の有無	無	応募総企画数	
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※			

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要	ふりがな	いっぱんしゃだんほうじん ながうたとうおんかい		
	制作団体名	一般社団法人 長唄東音会		
	代表者職・氏名	代表理事・西垣和彦		団体ウェブサイトURL
				https://nagautatouonkai.com/index.html
	制作団体所在地	〒	161-0033	最寄駅(バス停)
				JR目白駅
	東京都新宿区下落合3丁目9番3号			
	制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input checked="" type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です		
	ふりがな			
	公演団体名			
	代表者職・氏名			団体ウェブサイトURL
	公演団体所在地	〒		最寄駅(バス停)
	制作団体 設立年月	1957年 9月		
	制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
		名誉会長 味見亨(東音味見亨) 名誉顧問 宮田哲男(東音宮田哲男) 代表理事 西垣和彦(東音西垣和彦) 理事(部長) 簗田司郎(東音簗田司郎) 理事 赤星喜康(東音赤星喜康) 理事 野口悦治(東音野口悦至) 理事 渡邊雅宏(東音渡邊雅宏) 理事(部長) 松宮尚美(東音村石尚美) 理事 青島静子(東音青島静子) 理事 新井康子(東音新井康子) 理事 大場典子(東音林典子) 理事 中井いづみ(東音秀島いづみ)	役員10名 同人102名 名誉同人11名 準同人31名 事務局員2名	
	事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名	若和田史弥
	経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	松宮尚美
	本応募にかかる連絡先	メールアドレス		電話番号
		nagautatouonkai2025@gmail.com		0368234776

制作団体沿革・
主な受賞歴

[団体の概要および活動]

長唄東音会は1957年、当時東京藝術大学教授、故山田抄太郎氏（日本藝術院会員・人間国宝・文化功労者）のもと「東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業生を中心として長唄研究会を作り、今後続いて卒業する若い人達の研究なり演奏なりに対する一つの拠点を与えたい。従来の枠に閉じこもらず演奏家として地保を築き、且つ日本音楽の世界的躍進を期する」という主旨に各界著名人が発起人となり設立された。

長唄は江戸時代より歌舞伎音楽の重要な役割を担い、各流派によって連綿と受け継がれてきた。東音会の誕生は革新的な出来事と言える。

以来、積極的な演奏活動を継続しており現在は人間国宝・日本藝術院会員東音宮田哲男氏をはじめ東音味見亨氏、東音皆川健氏、東音西垣和彦氏、東音渡邊雅宏氏、東音伊勢弥生氏、東音岩田喜美子氏、東音谷口之彦氏、東音木田岳男氏の9名の重要無形文化財長唄総合保持者を擁する、会員150名を超える団体に成長した。

現在は年代層も幅広くなり長唄流派の枠を超え、長唄の研究団体として会員の育成、長唄の伝承・普及および発展に大いに貢献している。

2020年からは一般社団法人長唄東音会となり新たなスタートをきった。

法人となることで会員の結束をより強固にし、組織としての活動を更に活性化させ社会に広く認識してもらいたいと願っている。

東音会の特質の一つに確かな技術・三味線音楽への見識を身につけるべく研鑽する自己啓発の高い個々の集まりであることが挙げられる。三味線音楽を専門に学んでいる経緯から教育・指導に関しては得意分野である。

この分野での積極的な取組みとして

1「学校と繋がるProject」を立ち上げ東音会独自のプログラム（訪問型・リモート型・鑑賞会型）を用いて授業に直接参加し、唄・三味線の指導を行っている。

この事業に必要な数量の楽器、道具類、テキストなど東音会が所有しており、学校への貸し出しにも応じている。

2 定期的にワークショップを主催し、さめ細かな指導で長唄の普及に努める。

3 「アーカイブ事業」により故山田抄太郎氏の演奏テープをはじめ東音会の貴重な音源 資料を後進育成の一助とすべくデジタル化を進めている。

4 所属する長唄協会の「学校巡回」、東京都、アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会主催の「キッズ伝統芸能体験」では率先して協力体制で臨んでおりこの事業の遂行において、東音会の存在は欠かせないものと自負している。

[演奏会の開催]

創立以来、定期公演・特別記念公演・地方公演など600回を超える。

年に8回～9回の定期演奏会を有料で開催しており、定期演奏会には新たなレパートリーの追及を目的に新作に取り組む「東音創作会」、団体の中堅層による「長唄女子東音会小公演」、若手による「長唄女子東音会若手演奏会」も含まれる。

・1957年9月 山田抄太郎を中心に東音会を発足

以降、長唄の研究団体として会員の育成、長唄の伝承・普及活動を行う。

第一回演奏会を開催

・1960年 名古屋、仙台、京都で地方公演を実施

・1962年 東音会付属研究所 発足

・1968年 第一回東音創作会を開催

・1972年 大阪・熊本にて地方公演を実施

・1976年 第一回若手演奏会

・1987年 第一回小公演

・1989年 第一回小児難病救済チャリティー演奏会

・2007年 創立50周年記念東音会を開催。天皇后陛下 行幸啓奉迎。

・2020年 一般社団法人格を取得 一般社団法人長唄東音会に名称変更

「アートのエールを！東京プロジェクト」に「アートのエールを！～Touon 2020～」で参加

学校等における
公演実績

2011年 私立聖学院小学校にて学校公演を実施。

2021年 年間3回（延べ日数12日）東京にてワークショップを開催。現在も継続中。

2022年 松本市立鎌田小学校・松本市立奈川小中学校にてオンライン授業を実施

2023年 ポピンズナーサリースクールー番町園にて学校公演を実施。

2024年 ポピンズナーサリースクールー番町園、豊島区立駒込小学校、岡崎市立小豆坂小学校、私立広尾学園高等学校にて学校公演を実施。

その他、国際基督教大学教会幼稚園、調布市立柏野小学校、調布市立第一小学校、調布市立滝坂小学校、調布市立上野原小学校、調布市立深大寺小学校、調布市立国領小学校、調布市立若葉小学校、調布市立第七中学校、調布市立第六中学校、府中市立第十小学校、世田谷区立砧南小学校、私立立教女学院小学校、私立立教小学校、私立日本女子大附属豊明小学校、私立鎌倉女学院、文京区立本郷小学校、板橋区立板橋第二小学校、昭島市立拝島第一小学校、桐朋女子中学校、裾野市立富岡中学校、リセ・フランコ＝ジャポネ・ド・東京（東京国際フランス学園）、世田谷区立砧小学校

2025年 東京学芸大学教育学部附属世田谷中学校にて学校公演を実施。また、岡崎市立小豆坂小学校でも実施予定。

特別支援学校等における
公演実績

なし

参考資料	申請する演目のWEB公開資料	無	
	※公開資料有の場合URL		
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	ID:	
		PW:	

別添 あり

【公演団体名 一般社団法人 長唄東音会 】

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○

企画名 長唄探検物語！ 長唄ってなんだろう？

企画のねらい

本事業では、多くの児童・生徒にとって初めてとなる「長唄」の体験と鑑賞を通じて、日本の伝統音楽の魅力をわかりやすく、楽しく伝えます。
当団体は東京藝術大学出身の卒業生で構成されており、高い専門性を活かしながら「演奏に参加する体験」と「演奏を鑑賞する体験」の両方を質の高い形で提供します。
当団体の会員の中にも、東京藝術大学邦楽科の学生の演奏を聴き、邦楽を専門的に学べる場所（東京藝術大学附属高校や、東京藝術大学）の存在を知り、そこから長唄のお稽古に真剣に取り組む大学に入学した児童・生徒も少なくありません。
児童・生徒の皆さんに長唄の魅力を知っていただき、未来に活かせる経験になるようなプログラムを考えました。

共演「雨の四季」
三味線は15名程度、唄は20名程度、事前にワークショップで「雨の四季」をお稽古した児童・生徒が演奏家と一緒に舞台上で共演します。大人数で一つの舞台をつくりあげる楽しさを体験でき、協働の喜びや達成感を味わうことができます。
舞台で共演しない児童・生徒に向けて最初に雨の四季の一部分の唄をお稽古し、本番では全員で参加ができるプログラムにいたしました。

楽器解説と鑑賞「長唄で巡る四季」
演奏の合間に、長唄に用いられる多様な楽器の解説を行います。通常の唄・三味線に加え、「高音三味線」「低音三味線」も紹介し、音楽の教科書だけでは学べない長唄・三味線の発展を体感できます。特に高音三味線と低音三味線は長唄東音会の初代会長・山田抄太郎による考案であり、この楽器を紹介できるのは当団体ならではの特色です（低音三味線は各流会派によって様々なものが開発されている。東音会で使用しているものは山田抄太郎考案のもの）。
また、三味線方の掛け声の重要性について説き、実際に色々な掛け声を一緒に体験します。

古典名作の鑑賞「勝三郎連獅子」
最後に、古典芸能の代表作「勝三郎連獅子」を鑑賞します。力強い舞台表現を通じて、江戸時代から続く伝統芸能の迫力と歴史の重みを体感することができます。

以上の流れにより、子どもたちは「演じる体験」と「鑑賞する体験」の両方を楽しみながら、日本の伝統音楽に親しみ、文化の継承や将来の学びへの関心を深めることがねらいです。

演目概要・演目選択理由

■共演「雨の四季」
三味線は15名程度、唄は20名程度の児童・生徒が舞台上で共演します。
また、演奏前に鑑賞者全員で唄のパートを稽古して、鑑賞者もその場で演奏に加わります。
雨をテーマに四季の変化を描いた曲ですが、演奏しやすい箇所を抜粋しました。
ワークショップだけでなく本公演で舞台での演奏を経験することで、より深い理解をしてもらうのが狙いです。
今回、曲中に出てくる飴売りのセリフ調の部分を全員で唄う体験をしていただきます。そのパートの元となった唐人飴売りについても解説を行い、より深い理解をしてもらえるよう心がけます。

■楽器紹介「長唄で巡る四季」
春：桜絵巻
夏：神田祭
秋：夜遊楽
冬：都風流

桜絵巻では本手と替手・低音三味線で桜の舞い散る様子を表現しており、通常の三味線との音の違いを聴いてもらいます。

神田祭は賑やかな祭の様子を描いた曲です。先に演奏した桜絵巻と古典の長唄である神田祭でトーンの違いを感じていただきたいと思います。

夜遊楽では高音三味線が使われており、更に多種多様な音の違いを楽しむことができます。こちらは秋の夜を舞台に、虫の鳴き声を表現した曲です。

最後は都風流を演奏します。冬の風物詩である「歳の市」で雪が降り積もる様子を描いた部分を聴いただこうと思います。

■勝三郎連獅子
長唄には「獅子物」「石橋物」といわれる作品が数多く存在します。この作品は中でも代表的なものの一つです。
原典となった「石橋」は天竺（インド）の清涼山にかかる石の橋は人間が作ったものではなく、神仏の力によって出現した橋であり、そこでは文殊菩薩の使いである獅子が牡丹の花に戯れているという伝説を語ったものです。
本作品はその物語の中に獅子は我が子を千尋の谷に突き落とし、這い上がってきた子供だけを育てるという伝説を加えたものです。
最後は獅子の豪快な動きを表現します。

<div> <div> 本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール)の目安 </div> </div>	<div> 前日仕込 </div>		<div> 無 </div>		<div> 前日仕込所要時間 </div>		<div> 時間程度 </div>	
	<div> 到着 </div>		<div> 仕込 </div>		<div> 上演 </div>		<div> 内休憩 </div>	
	<div> 9:00 </div>		<div> 9:00～10:30 </div>		<div> 13:00～14:30 </div>		<div> 10分 </div>	
	<div> 14:30～15:30 </div>		<div> 15時30分 </div>					
	<div> ※本公演時間の目安は、概ね2時限分程度です。 </div>							
<div> <div> 本公演 実施可能日数 目安 </div> <div> ※実施可能時期については、採択決定後に再度確認します(大幅な変更は認められません)。 </div> </div>	<div> 6月 </div>		<div> 7月 </div>		<div> 8月 </div>		<div> 9月 </div>	
	<div> 15日 </div>		<div> 0日 </div>		<div> 0日 </div>		<div> 15日 </div>	
	<div> 10月 </div>		<div> 11月 </div>		<div> 12月 </div>		<div> 1月 </div>	
	<div> 15日 </div>		<div> 15日 </div>		<div> 15日 </div>		<div> 15日 </div>	
	<div> ※平日の実施可能日数目安をご記載ください。 </div>				<div> 計 </div>		<div> 90日 </div>	
<div> <div> 公演に係るビジュアルイメージ (舞台の規模や演出がわかる写真) </div> <div> ※会場条件について最低限必要 </div> </div>	<div>  </div>							
	<div> (図1) 演奏中における演者の配置イメージ。 </div>							
<div>  </div>								
<div> (図2) プロと共演「雨の四季」の舞台イメージ。 </div>								
<div> 著作権、上演権等の許諾状況 </div>	<div> 各種上演権、使用权等の許諾手続の要否 </div>		<div> 該当なし </div>		<div> 該当コンテンツ名 </div>		<div> </div>	
	<div> 該当事項がある場合 </div>		<div> 権利者名 </div>		<div> 許諾確認状況 </div>		<div> </div>	

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添

なし

【公演団体名 一般社団法人 長唄東音会 】

ワークショップの
ねらい

■ 児童・生徒全員が体験できる

東音会が所有する三味線を学校に運び、児童・生徒全員にお稽古を体験させます。三味線だけでなく長唄の指導も行い、身体的制限に関わらず、誰でも古典芸能に触れる機会を提供します。
また、小鼓・締太鼓・篠笛のワークショップも行います。

■ 実際に楽器にふれることができる

三味線は日常で触れる機会が少なく、保持や演奏も難しい楽器です。しかし、プロの演奏家が指導することで、正しい構え方や音の出し方を学ぶことができます。また、長唄の指導では発声法や姿勢の基本を学び、歌唱表現の理解を深めます。

■ ワークショップでの成果を披露

指導を受けた児童・生徒全員で本公演にて合奏を行い、唄と三味線でお互いの呼吸を合わせる体験をします。協働して舞台を作り上げる楽しさや難しさを体感し、団結して表現する喜びを学びます。

児童・生徒の
参加可能人数

ワークショップ

参加人数目安

150名程度

ワークショップの
内容ワークショップ
実施形態及び内容

【ワークショップ】

・体育館の前と後ろに分かれて行います(体育館の広さによっては、別室をお借りすることになるかもしれません)。

・雨の四季の共演を行う児童・生徒(三味線は15名程度、唄は20名程度)は本公演での共演に向けて体育館前方にてお稽古をします。
三味線は構えることから大変に難しい楽器ですが、児童・生徒3人に対して1名の講師が付きますので、丁寧に分かりやすい指導を受けられます。
唄は1人の講師が発声方法から丁寧な指導を行います。日本語のルールである濁音、鼻濁音の発声方法、全身を使った大きな声での歌唱方法、喋っている声と歌唱との声の違いなど細やかな指導を行います。

・雨の四季をお稽古しない児童・生徒は、体育館後方に設置された体験ブースで(長唄・三味線・小鼓・締太鼓・篠笛)体験を行います。

・私達の提案するワークショップは本公演に出演する演者全員がワークショップの講師を務めるため、沢山の児童・生徒に細やかな指導を行うことができます。

・体験する人数によって、体験時間を変更することもできます。少人数の場合は一つ一つの楽器を体験できる時間も長くなりますが、大人数でも体験ブースが5ヶ所あるので対応可能です。

・本公演の「雨の四季」には様々な楽器が登場します。楽器展示コーナーを用意するので間近で楽器を観察することができます。

・テキストにはワークショップを体験することで埋めることができるクイズコーナーのページを用意します。クイズの回答を探しながら楽しんでワークショップに参加することができます。

その他ワークショップに
関する特記事項等

・「雨の四季」で舞台に上がって三味線を弾く児童・生徒は正座をいたしますので、座布団や防災頭巾・バスタオルなどのご準備をお願いいたします(足が痺れたり痛くなるのを緩和するため)

すべてのワークショップを体育館で行う予定ですが、会場の大きさなどによってそれが困難な場合、「雨の四季」の稽古は別室にて行いますので、お部屋をお借りする場合がございます。

時間外対応	(任意)	万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合については、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。				
	なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。					
	※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。					
		対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ					
	ワークショップ					
	本公演	共演、参加又は体験対象となる児童・生徒	15分	お昼休み	本公演前に全体リハーサルを行います	
	本公演					

個別確認事項	(任意)	上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。	
		個別ヒアリング事項	
	1		
	2		
	3		

会場簡易図面	(任意)	会場条件について最低限必由奈条件がある場合、簡易図面を記載してください。	
		※搬入に関する条件の詳細については、上記の会場条件欄にて確認してください。	
	<div><div>「</div><div>体育館 舞台</div><div>」</div><div><div>「</div><div>体育館 フロア</div><div>」</div></div><div><div>舞台袖</div><div>体育館の舞台</div><div>毛氈</div><div>舞台袖</div><div>鑑賞位置</div><div>開口</div></div><div>フロア使用時</div></div>		

別添

なし

【公演団体名 一般社団法人 長唄東音会 】

【本事業を通じて実現したいこと】

長唄東音会は1957年の設立以来、長唄の研究・普及・伝承に力を注いできました。2020年より一般社団法人となり、「学校と繋がろうProject」を通して訪問型・リモート型・鑑賞会型の授業参加や唄・三味線指導を行っており、必要な楽器・教材も学校に貸し出す体制を整えています。また、長唄協会や各種伝統芸能体験事業への協力実績も豊富です。

当会では定期的にワークショップを行っており、過去に国立劇場大劇場や日本製鉄紀尾井小ホールにて発表の機会を設けました。しかしながら、現状は首都圏近郊でしかワークショップを行えておりません。

この事業を通して、長唄の魅力を知っていただき、仲間と舞台を作り上げる楽しさや達成感、美しい日本語の表現方法、発声方法、和楽器の難しさや、魅力を日本全国の児童・生徒の皆さんに届けることを実現したいと考えます。

【上記の実現に向けて、実施の工夫】

東音会は演奏団体であり、より良い演奏を行うことに主眼を置き、同人全員が定期的に演奏会・ワークショップでの演奏・指導をしています。それだけでなく、運営も同人たちで執り行っているため、少ない人数でも技術的に高い演奏・指導ができます。

ワークショップでは15名の演奏者が講師として指導にあたります。雨の四季を本公演で共演する選抜の児童・生徒は唄か三味線かを選択しお稽古をしますが、その他の児童・生徒向けに楽器体験のブースを用意しました。

そして雨の四季で登場する普段なかなか見ることのできないお囃子の様々な種類の楽器や、高音三味線、低音三味線を展示するコーナーを設置し、児童・生徒が飽きることなく楽しんで巡ってもらえるように工夫を凝らします。

児童・生徒、先生方が疑問に思われたことに対しては適宜お答えをして、交流をしながら楽しく長唄を学べる環境をつくります。

本公演では長唄を初めて聴く児童・生徒に寄り添い、分かりやすく、楽しく学べるプログラムを考えました。古典から合奏曲まで幅広い演目を取り入れて、児童・生徒が夢中になる舞台をお届けします。

本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫

本事業への応募理由

事業を適切かつ
円滑に実施するための
工夫

【学校との連絡調整について】

・東音会には学校巡回やワークショップ実施の経験が豊富なスタッフが担当者として常駐しており、学校との連絡・日程調整を円滑に行います。

・事前に学校担当者とプログラム内容・時間配分・準備物について十分に打ち合わせを行い、児童・生徒の人数や施設条件に応じて柔軟に対応します。

・学校の先生に負担のかからないような方法で連絡を取ります。基本的にはメールを想定していますが、ご要望に応じて様々な方法での連絡を行います。

【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】

学校側とのお打ち合わせの際に、配慮が必要な児童・生徒の確認を必ず行うようにします。状況に応じてどのような対応ができるのかを学校側とご相談の上決めていきます。例えば、大人数の場所が苦手な児童・生徒さんがいる場合は個別にお部屋をご用意いただき、そちらで少人数で唄のお稽古や打楽器なども体験できます。本公演は音響の専門家も帯同しておりますので、スピーカーの置く位置の工夫するような対応も可能です。

【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】

継続的な学びについて

・ワークショップで習得した内容は、学校での音楽授業やクラブ活動に応用できるよう、指導用のテキストや教材を提供します。

・希望する学校には、東音会の演奏会・ワークショップ情報を案内し、再度体験する機会を提供します。

・当団体はリモートでの稽古や出張演奏、公演の経験も豊富ですので、要望があればその後の継続的な指導、公演も行うことができます。

・当団体には普及育成に力を入れている部署「事業部」があります。詳しくは下記URLをご覧ください。

長唄東音会 邦楽の教育事業 (<https://nagautatouonkai.com/kyoiku.html>)

別添

なし

【公演団体名 一般社団法人 長唄東音会 】

特別エリア区分で事業を実施するに当たっての工夫

①離島・へき地等における公演実績

2021年 神奈川県厚木市「七沢希望の丘初等学校」にて実施。
文化庁2023年実施「子供たちの伝統文化の体験事業」9月に北海道恵庭市、長崎県佐世保市(近隣離島含む)にて実施。

②離島やへき地等の地理的に特殊な事情がある地域で実施する上での工夫や、当該地域、また特別エリア区分の企画に求められる要件を踏まえた上で、一般区分と同様の公演及びワークショップの質を保つための工夫

【特殊な事情がある地域での実施に当たっての工夫】

普段の演奏では、大道具の業者に舞台制作を依頼し、山台や屏風などの設置をしています。これは見栄えの良さもありますが、山台の板目や屏風によって音を反響させ、舞台の前方に音を飛ばす事によって音の響きを良くするためでもあります。
しかし大道具の搬入にはトラックなどによる大掛かりな搬入が必要となり、僻地での演奏には不向きだと考えました。

そこで、マイクやスピーカーなどの音響装置のみにすることで、搬入や移動を身軽に行えるよう計画しました。

【質を保つための工夫】

東音会は会員が定期的に演奏会に出演する機会があり、すべての演奏において理事が監修を行っています。そのため、会員全員の技術レベルが高く、どのような状況にも対応できるスペシャリストの集団です。よって小編成でも高い質の演奏を届けることができます。

③特別エリア区分応募における、費用面の工夫

大道具の業者を入れていないので運搬費を削減している。
また、東音会は常日頃から演奏者がスタッフを兼任しているため、スタッフを削減してもワークショップ・公演を質を落とさずに行うことができる。
東音会所有の楽器を持参使用するため、楽器貸借料の削減につとめている。

リンク先	No.1	【公演団体名 一般社団法人 長唄東音会 】
項目内容	「学校と繋がりProject」を立ち上げ以降、実際に学校で行われた【訪問型】と【オンライン型】の様子を紹介します。	
		
	<p>小学校の体育館にて行われたワークショップの様子</p>	
		
		
		(一社)長唄東音会
		(一社)長唄東音会
		<p>地方においてワークショップ後、指導者と子供達と一緒に演奏している様子</p>
		

リンク先

No.2

【公演団体名

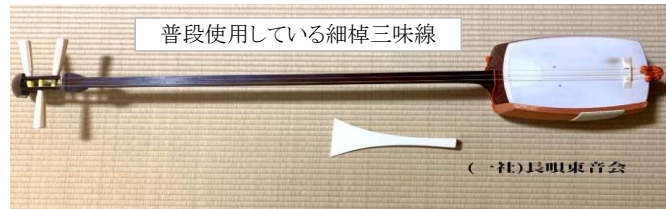
一般社団法人 長唄東音会

】

項目内容

【楽器紹介】

長唄東音会では当団体創設者山田抄太郎により考案された、高音三味線（通称：シャミドリン）と低音三味線を所持しておりそれぞれの特徴を紹介します



高音三味線

丸い胴をしており、音色や見た目がマンドリンに似ていることから、シャミドリンと呼ばれている。普段使用している三味線よりも小さいため、箏爪やピックを使用して演奏されるが、演奏者により弾きやすい道具を使用してもよい。



低音三味線

主にベースの役割を果たす楽器である。

形は一見すると通常の三味線と同じに見えるが、棹の長さが長く、胴も大きい。

糸は普段使用しているものより太く長いものを使用する。それにより低音のならではの音の響きが演奏に深みをもたせる。

撥は象牙素材のものでは軽く糸の跳ね返りに負けてしまうため、重めの木撥を用いて演奏される。駒の材質は水牛が多い。

